

### ▼飯野海運が大規模買付対応で新株予約権

飯野海運(関根知之社長)はこのほど、大規模買付行為に関する対応方針の導入決議にともない、新株予約権の発行登録を決めた。発行予定期間は8月3日から2年間で発行予定額は2億2000万円。募集方法は新株予約権無償割当て。

大規模買付行為が企業価値や株主共同の利益を著しく損なうものであると同社取締役会が認めた場合、機動的な新株予約権の無償割当てを行うことで対抗措置をとる。

### ▼物流技術管理士会がセミナーを開催

物流技術管理士会(重田靖男会長)関東支部は13日、港区芝浦の三田ツインビル東館で、セ

ミナー研究会を開いた。2010年度の活動の一環として開かれたもので、他にも年度内に事例研究が3回と、特別現場見学会が行われている。

会員を中心に約50名が参加する中、CBRE総研シニアコンサルタント鈴木公二氏を講師とし、「ユーザーから見て人気の高い物流施設、施設開発の現状と今後」が開催された。

首都圏の大型物流施設の空室率や稼働床面積の推移、企業の設備投資動向など様々なデータを使い、大型物流施設の現状や将来予測が語られた。

なお、関東支部では、10月に流通業関係特別見学会を予定している。

## エコトラックの大型CNGトラックによる都市間輸送

### 天然ガス自動車フォーラムで講演



役員取締役池田雅信の講演  
天然ガス自動車の普及促進を図る  
天然ガス自動車フォーラムの第52回  
研究会(東京ガス  
と共催)が21日、  
東京・千代田区の

星陵会館で開催された。

トラック関連では、エコトラック取締役の池田雅信氏が「大型CNGトラックによる都市間輸送の将来像」と題して講演。同社は独自に開発した大型CNGトラック(低床4軸ウイング車)を使って大阪〜東京間で長距離輸送を手掛け、パナソニックやシャープなどの大手荷主から輸送を委託されている。

CNGトラックの環境性能はPM(粒子状物質)、SOx(硫黄酸化物)の排出がなく、NOx(窒素酸化物)を大幅に削減できるのが特徴。「荷主はモーターシフトを進めているが、大半の長距離輸送は大型トラックに頼っており、低公害化が求められている」(池田取締役)と話す。

加えて、パナソニックからは環境に大きく貢献したとして表彰も受け「荷主と

運送会社という隷属関係から、対等なパートナーシップを築けるようになった。原価計算に基づいた運営ができてい」と成果をあげる。

また、ディーゼルトラックに比べて燃費効率が優れているため、大型トラックによる都市間輸送では年間100〜200万円の燃料代を節減。特に岩盤層などから採掘できるシェールガスが世界的に増産されてから天然ガスの価格は下落し、軽油との価格差も開いているという。

ただ、ハイブリッド車や電気自動車が目玉を集めるなか、天然ガス自動車の普及の勢いが弱まることを危惧しており、「日本は天然ガス自動車の規制が厳しく価格が高い。海外並みに安くしなければ普及は難しい。規制を取り払い、市場が活性化して欲しい」と訴えていた。

このほかの講演は「低炭素化社会とモビリティ」(国連環境計画金融イニシアチブ特別顧問の末吉竹二郎氏)、「エコロジ」と街づくり」(同志社大学経済学部教授の郡寫孝氏)、「自動車とは何か、自動車はどこへ向かうのか」(モータージャーナリストの清水和夫氏)。